



インフルエンザは一転して減少に！

昨年末に流行が始まったインフルエンザ。年末年始の救急外来は1日500～700人の発熱の患者さんで溢れかえりました。年明けはさらなる感染爆発が起こるのではないかと危惧していましたが、杞憂に終わったようです。今治市の1月第3週までの定点あたりのインフルエンザ報告者数は30人を超えていましたが、第4週からは10人前後と急減し、第5週はさらに少なくなっています。

インフルエンザの減少に伴い、新型コロナウイルスが増加しはじめ、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、マイコプラズマ、溶連菌などの感染症が散発的に発生するようになりました。

1月第4週からは突然の嘔吐で始まる感染性胃腸炎が急増しています。感染性胃腸炎の感染対策は手洗いが最も大切です。帰宅後、食事の前、トイレから出たあとは必ず手洗いをするようにしましょう。また、感染の拡大を防ぐには、嘔吐物や下痢便の処理の仕方や次亜塩素酸ソーダによる消毒についての正しい知識が必要になります。この機会にこれらについてインターネットで復習をしておくといいと思います。

家庭看護のポイント (3)

～熱がでたときの病院受診のタイミング～

外来で保護者の方から上記の質問をうけることがあります。基本的には、熱があっても「食べる、遊ぶ、寝る、出す」ができていれば、受診の必要はないと考えていいでしょう。受診をする目安について示してみます。

- ①ぐったりして、活気がない時
- ②『いつもと違う、何か変』と思った時
- ③全身状態がよくても、発熱が3日以上続く時
- ④生後3ヶ月未満で熱がでた時

※①と②は一部重複していますが、いつもと違う場合は違う点をかかりつけの先生に伝えましょう。
※全身状態がよいとは「食べる、遊ぶ、寝る、出す」ができているということです。



1月の感染症情報

1月前半は昨年末から引き続いてA型インフルエンザが流行していましたが、後半からは流行が下火になっています。新型コロナも一時増えるかと思われましたが、定点あたり5～6人で比較的落ち着いています。

インフルエンザの流行が収まるにつれて、RSV、ヒトメタ感染症が一部の保育所などで出始めています。1月下旬から感染性胃腸炎が増えてきていますので、ご注意ください。



1月の利用状況

1月の利用延べ人数は74人、1日平均利用人数は3.9人でした。年齢別では、1歳児、2歳児、4歳児、6歳児が12人前後とほぼ同数でした。疾患別ではA型インフルエンザが41人と全体の半数以上を占め、ついで急性上気道炎の19人の順でした。

2月3日は立春です。暦の上では春の到来ですが、同時に立春寒波と呼ばれる強い寒気が流れ込んで1年で最も寒くなる時期でもあります。体調管理に気をつけて、くれぐれもご自愛ください。